

南湖公園

奥州白河

語り継ぐいにしえ浪漫



周辺の見どころ

小峰城跡 (国史跡)

初代白河藩主丹羽長重が一六三三年に大改築した奥州閉門の名城。松平定信をはじめ七家二十一代の居城となりましたが、戊辰戦争で焼失落城しました。現在三重櫓、前御門が復元されています。



南湖森林公園

南湖公園に隣接し、市街地に隣接する里山として広大な面積を有しています。園内には遊歩道が整備されており、散策のほかにも、森林に関する学習や活動の場として利用できます。



白河関跡 (国史跡)

奥州三古関の一つ。奈良・平安時代に人や物資の往来を取り締まっていたとされ、関後は「歌枕」として多くの歌人の歌に詠まれました。憩いのひとときを家族揃って楽しめる「白河関の森公園」も隣接しています。

南湖公園ご案内図



白河市商工観光課

〒961-8602 福島県白河市八幡小路7番地1
Tel.0248-22-1111 Fax.0248-24-1844
E-mail:shokokanko@city.shirakawa.fukushima.jp

白河観光物産協会

〒961-0074 福島県白河市郭内1番地2
Tel.0248-22-1147 Fax.0248-22-0117
E-mail:shirakawakankou@shirakawa-22-1147.jp
URL:http://shirakawa315.com

士民共楽の地

国指定 史跡・名勝

南湖は、名君であり茶人また優れた作家であった白河藩主、松平定信（楽翁と称す）により、享和元年（一八〇一）に築造された日本最古と言われている「公園」。「南湖」の名は李白の詩句「南湖秋水夜無煙」から、また「小峰城」の南に位置していたことから名付けられたといわれています。定信はこの公園において身分の差を越え庶民が憩える「士民共楽」という思想を掲げ、「共楽亭」と称する茶室を建て、士民と楽しみを供にしました。その志はいまなお受け継がれています。

そして創設より二〇〇年余の時に磨かれた公園は、吉野桜、松、楓など四季折々に優雅な風趣をたたえ、花と緑と水の園として市民をはじめ多くの人々を魅了し続けています。



名君・松平定信

松平定信は二十六歳で白河藩主となり、天明の大飢饉の際は領民を救うために自ら儉約を率先し、食料救済措置を迅速に行い、白河藩からは飢饉による死者を一人も出さなかったといわれています。うちに寛政の改革などを行い幕政安定を目指しました。



写真提供：福島県立博物館

県道232号

至棚巻町→

【南湖神社】
大正十一年（一九二二）、日本資本主義の父と呼ばれる渋沢栄一の援助のもとに設立。
祭神は松平定信。境内には定信ゆかりの「松風亭蘿月庵」があります。



【松風亭蘿月庵】

茶人としても知られる松平定信遺愛の茶室。質素な茅葺の造りとなっています。

「蘿月」は「ツタの葉の間から見える月」の意味です。



松風亭蘿月庵



楽翁桜

楽翁公の像



WC

月見浦

下根の島

千世の堤

南湖開鑿の碑

月待山

八聲の村

小鹿山

千代松原

南湖公園の碑

千代松原

南湖公園の碑

千代松原

南湖公園の碑

千代松原

南湖公園の碑

千代松原

南湖公園の碑

千代松原



南湖公園日本庭園

【翠楽苑】

池泉回遊式日本庭園。苑内には書院造りの「松楽亭」や「秋水庵」などがあり、呈茶のほか結納や各種法事、茶道・華道・句会・歌会などに利用できます。

【共楽亭】

定信によって、南湖で眺めの良い場所に建てられた茶室。「士民共楽」という身分を超え、敷居を廃して誰もが楽しめるという理念によるものです。



常盤清水

鏡の山

南湖十七景

錦の岡

関の湖

真萩が浦

有明崎

松虫の原

松風の里

白河フラワーワールド

国道289号

←至新白河駅

南湖公園の碑

千代松原

南湖公園の碑

千代松原

南湖公園の碑

【名物・南湖だんご】

花見に必須のメニューですが、春だけではなく年中食べられる「南湖だんご」は小粒のだんごを爪楊枝でいたたく、ちよと珍しい逸品です。南湖公園を築造する際に、職人たちに振る舞われたのがはじまりといわれています。

【複合的機能を持つ園地】

南湖は、溜池として周辺の田を潤す機能や、異国船来航の増加に伴う警備に備えた藩士の水練・操船訓練の目的もあつたとされます。また南湖築造が天明の飢饉後も困窮する領民の救済事業となっていました。木を植えたり景色を整えて築造したここに加え、様々な要素や目的を同時に取り入れた、当時としては他にない庭園であつたといえるかも知れません。



八月初旬に開催される「灯籠茶会」や九月に開催される「十五夜月見会」では幻想的な雰囲気の中で早茶・抹茶と生菓子や散策が楽しめます。

南湖十七景

定信は大名庭園に造られる「名所」の手法で、南湖に十七の景勝地を設け、これらの名所には和名・漢名の二つが付けられました。これらの名を題名にして、親しい大名・公家・儒学者に和歌や漢詩を依頼し、寄せられた自筆を仙台石に刻んで文政三年（一八二〇）に建てたのが「南湖十七景詩歌碑」（現在共楽亭の西側に所在）です。定信自身も「共楽亭」と「鏡の山」の和歌を詠んでいます。